R04年度学校関係者評価（幼稚園）

学校評価（幼稚園）

教育目標（キリスト教精神に基づくバランスのとれた人間教育）

	評価項目	評　価　内　容	自己評価		学校関係者評価	
			評価点	幼稚園としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	本園の教育目標及び教育課程の作成等、目標を達成するための取組ができている。	B	教育目標に関しては教員同士話合い、一生懸命取り組んできた。しかしそれに対しての反省会は行うものの、改善等に及ばないところがあった。今後、教育課程の内容改善を含め取り組む必要がある。	B	教育、指導に関しては、これまで同様に教員同士で話し合いの場を常に設けて、情報共有や指導の統一を続けて頂ければなと思います。
2	宗教指導	カトリック幼稚園として教育活動を通じ、その使命を果たしている。	A	今年度は、専門の講師からの教員研修（2か月に1度）と、SRが直接園児に対する講話をしていただく機会ができたため、教員も園児も神さまに対する思いは、今までよりも強く感じることができた。今後も続けていきたい。	A	子供たちはシスターの存在を意識し、マリアさまにお祈りをする習慣が日常で見られました。
3	教育課程	子どもたちが自ら活動を展開していけるような環境構成を心掛けている。	A	環境構成に関しては、教員が他園見学の研修に出る、またズーム研修を受けるなど積極的に学び、少しずつ取り組んできた。	A	自己評価に同意
4	教科指導	特別支援教育など、一人ひとりの子供たちの姿にふさわしい姿でかかわっている。	A	特別支援に関しては、学園心理カウンセラーに見てもらい計画的に一人ひとりにあった支援方法を模索してきた。また他の教員とも情報を共有し園全体でその子にあった支援方法で関わるようにしてきた。難しい子どもが増えてきているので、これからの課題である。	A	自己評価に同意
5	遊び指導	子どもたちの中で教師自身がモデルとして遊びの援助者としてふさわしい姿でかかわっている。	A	つぼみ・年少組に関しては、幼稚園が安心できる場所として子どもと関わってきた。それにより子ども自ら遊びだせるようになり自主性を育むきっかけとなれたと思う。年中・年長組に関しては、一人から集団遊びの楽しさや人との繋がりの大切さに援助してきた。まさに幼稚園ならではの良さが感じられたと思う。	A	自己評価に同意
6	行事	園の行事内容、管理運営が適切に行われ、かつ協力体制が整っている。	A	行事は、コロナ感染対策を講じつつもできることの範囲を広く考え取り組んできた。そしてなるべく園児の今しかできない取り組み、体験を重要に考えできる範囲で行ってきた。かなり感染が広がり難しい時期もあったが父母の会の方々と連絡を密にし教員間の連携もとり十分に行ってきたつもりである。	A	自己評価に同意
7	研修	教師の資質向上のため、園内研修やその他の研修が適切に行われ、それを自分自身の保育に生かそうと努めている。	B	園内研修も少しずつ行ってきた。教員も自ら研修に出たり、ズーム研修を受けたりしてきたが、まだまだ思いきりができていない。これからであると思うが、時間の確保が難しい面がある。	B	自己評価に同意
8	生活指導	子どもたちへの適切な指導のために、教職員の連携や協力体制が適切に行われている。	A	園児の降園後、振り返りやこれからの予定など話合い、また帰りの打合せの折には、一人ひとりの出来事や適切な指導のためにはどのようなことが良いか等、情報共有を含め行った。	A	自己評価に同意
9	保護者とのかかわり	教育活動における保護者とのかかわりにおいて、情報発信や協力と支援などが適切に行われている。	A	行事と、重なる部分はあるが常に父母の会の方々と連絡相談をしてきた。コロナ感染が収束する状況ではなかったため、保育参観や懇談会が思うようにはできなかった。そのため、クラスだよりまたはHPで子どもたちの様子などその都度発信はしてきた。	A	自己評価に同意
10	安全管理	子どもたちの健康や安全を守るために、適切な指導や施設管理が行われている。	A	不適切保育や、スクールバスの事故のことを受け、その事項に関しての研修を受け、職員同志の情報交換や意見交換などしてきた。安心して通うことのできる幼稚園が第一であること、また保護者には安心して子どもを送りだして預けることができる園であることは信頼していただけるようこれからも保護者とのコミュニケーションを絶えず行っていきたい。また職員研修等で振り返る機会を設けていきたい。	A	自己評価に同意
11	分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対して責任を持って取り組み、機能している。	A	教員もコロナ感染等体調不良にもなった時期もあり、声を掛合いながらフォローし合ってきた。行事もほぼ行うようにしたり、体験をさせるため役割分担をし精一杯取り組んできた。	A	自己評価に同意
12	関連事業	子育て支援の一環としての預かり保育やその他の事業が適切に行われている。	A	就労させる方も年々増加傾向にあり、預かり保育も増加してきている。しかし、担当職員の募集が追いつかずであるところが課題となっている。不足の時や、長期休暇の時は、教員が補わなくてはならず、教員の多忙化にもつながっていた面もある。この場でも安心安全の確保のためにも担当職員の確保は急務であると思っている。	A	自己評価に同意

13	施設・設備	園の施設整備は子供たちが生活するうえで適切な環境として管理されている。	B	園のシンボルとなる総合遊具に関しては、新たなものとなり園児の活用も多く見られ、人気の遊具となった。また、未就園児や園見学に来た子も遊ぶことができ、幼稚園に集う子どもたちにとって体力面や時にはコミュニケーションの1つの役割となっている。管理棟に関しては、日当たりがよくないことや老朽化により今後修繕等必要と思われる。遊戯室に関しても預かり保育利用の園児が増えスペース的にも衛生面からの観点からも修繕が必要かと思われる。	B	施設整備に関しては、遊具も新しくなり保護者として安心しております。 他には遊戯室、管理棟の老朽化が心配の一つです。 簡単な話ではないですが、遊戯室と父母会室が一体化した新設備の導入も検討して頂きたいと思います。 2000年代からコロナを含めたここ何年かで、沢山の人達の生活様式や価値観が変わりました。 少子化や労働人口が減る一方で、預かり保育の増加により今後ますます現状の態勢では負担だけが増すばかりです。 教職員の人員確保、教職員の時間の確保、安心安全な施設の確保は検討する必要があると考えます。 教育費の値上げをされましたが、上記3点を充実させる為には必要であれば更なる値上げも仕方ないとは思います。 話がそれましたが、より魅力的で活気のある幼稚園（小～高）を創出し、孫も通わせたいと思える学校として今後も繁栄していく事を願っております。 お世話になりました。 体操教室や行事やイベント、預かり保育等、日々園児が頻繁に利用しているお遊戯室の老朽化が気になります。 お遊戯室の外回り(柱や屋根)も然り、屋根の内側の剥がれやサビを見て、耐震性や安全面から不安を覚えました。 万が一保育中の大地震等の自然災害の時には、 まずは身を守り、園庭で状況確認、 そして、園児がみんな一緒に同じ場所で安心してお迎えを待てるような、 耐震性があり、衛生面も良いお遊戯室が必要ではないかと思いました。
全般、総合評価			A	今もこれからも変わらないキリスト教保育の大切さ、幼稚園教育の重要性が改めて重要であると感じている。それは、スクールバスの事故、不適切保育の件により、教員や職員が不安に陥るほど衝撃を受け戸惑いを感じた時期があった。言葉がけ一つ神経を配りながら日々過ごし子どもに対応し、また保護者への対応も丁寧に行ってきていたが、それが日常化してしまっていないかどうか振り返る良い機会となった。その中でやはり神さまが共にいてくれる園であること、教育の場であることの強みは持ち続け、教員一人ひとりも、自分らしくありのままで子どもに向き合うことが重要であると感じた。今後もサレジオの良さを広く発信していきたい。またコロナの問題により衛生面や子どもの関わり（距離の取り方、体験すること）の大変さが浮彫となってきたためこれからは、対策に気を配りながらも子どもたち、保護者が楽しい園となるよう引き続き父母の会と連携をとり行っていきたい。	A	保育に関わっている方々が園児ひとりひとりを大事に成長を見守りながらつとめてくださっておられる様子がみられ、感謝しています。学園の精神のうちにこれからも園児たちの心身の成長と幸せのためにご尽力ください。

【評価点】
- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】
- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方（学校関係者評価を受けて）

教育目標に関しては、今までのものを見直し内容の充実に努めていきたい。更に研修等外部に出て情報の収集から園内の研修へとつなげ、教育内容へ反映できるようにと考えている。 宗教教育に関しては、令和4年度の内容をふまえ、更に更新しながら宗教教育にも引き続き力を注げるよう、教員が自らの行いをもって園児たちに示していきたい。　施設設備については、ご指摘いただいている通り預かり保育利用者が年々増加傾向にあるため、そのニーズから園児の安全面を優先し、耐震を含め老朽化について、改善できるよう積極的に考えていきたい。 教員の確保には、現状は難しい面があると感じている。大変な中にも、園児の成長を共に喜び、やりがいを持ってできる仕事であることをもっと大学側（養成校）に伝えられるようこれも積極的に時期も早いうちから行っていく。学園のHPの更新等からも、サレジオの良さが伝わり一緒にやってみたいと思えるような雰囲気も作っていきたいと考えていきたい。それは、園児の募集にも繋がっていくと思う。